

# 今月のテーマ クララとお日さま



# 田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

待ちに待ったカズオ・イシグロさんの新作が出ました。『クララとお日さま』という童話のようなタイトルが付いたこの小説を、すぐに書店で買って読んだのは言うまでもありません。ロンドンでお会いして以来、この日を楽しみにしてきたからです。

3年前にロンドンでお会いしたのは、長崎市名誉市民章をお渡しするためでした。妻のローナさんと会場のホテルに来られたイシグロさんは、長崎にまつわるさまざまなお話と同時に、長崎への思いを話してくれました。

イギリスに行っても家族全員が日本に帰るつもりだったので、日本語の勉強をするようにお母さんに厳しく言われたこと、長崎でおいしいものに連れて行ってもらった映画が怖かったこと……興味深いエピソードをたくさん聴くことができました。

中でも私が一番感動したのは、受章後のあいさつでこう言われたことでした。

「私は長崎を離れたことはありません。」

その言葉を聞いた時、この

かたに名誉市民になつていただいて本当によかった、と思いました。5歳の時に長崎を離れ、イギリスに渡ったイシグロさんの心の中にずっと「長崎」があったことを、とてもうれしく、そしてありがたく思いました。

私は、会話しながら、イシグロさんに長崎人的なものを感じていました。とても気さくで、垣根を感じないので、ノーベル文学賞を受賞されたことも自然体で受け止めておられて、そのおかげで必要以上に緊張せずに話すことができました。

「長崎にぜひおいでください」とお願いすると、笑顔で「ぜひそうしたいと思えます」とすぐに答えてくれました。「ただ、今、新しい小説を書き始めていて、それが完成するまでは難しいのです」というお話でした。その日から、新作の発刊を楽しみに待つていました。もちろんその時は題名を知る由はありませんでしたが、それが『クララとお日さま』だったので。

『クララとお日さま』は、AIロボットのクララと登場人物との交流を軸に物語が進みます。私の場合、ドキドキしたり、切なくてしばらく本を置いたりしながら、一気に読み進むうちに、あつという間に印象的なラストシーンにたどり着きました。とても読みやすく、そしてとても深い物語です。未来について、人間についてのヒントや考えるきっかけをくれる物語です。ぜひお読みください。



カズオ・イシグロ著  
土屋政雄訳  
早川書房刊

ところで、最新作は完成しましたが、コロナ禍のために、イシグロさんの来崎はしばらく難しくそうです。でも、近い将来、必ず長崎に帰ってきてくれる日が訪れると思います。イギリスも、日本も、まずはコロナ禍をしっかりと乗り越えることが先決。厳しい冬の後に訪れる春を楽しみに待つように、この訪問はしばらく取っついておいて、今はコロナ対策に全力で取り組みたいです。

※「クララとお日さま」に関連した講座を中央公民館で開催。詳しくは、30ページ。



ながさき  
ふち  
旅行

隠れ絶景スポット  
大城公園

道の駅夕陽が丘とめから徒歩約15分の大城公園は、荒波により海岸の岩盤が剥ぎ出しとなってそそり立つ崖の上にある自然公園です。国道沿いの石柱が広場から続く長い階段を上り森林へ。石積み階段を進み緑のトンネルの小さな出口をくぐると、白い円柱にお皿？きのこ？不思議な形の建物が現れます。円柱には小さならせん階段。公園の遊具みたいでワクワクします。階段の上には展望台。360度のパノラマで、角力灘の大海原に、池島などの島々から野母崎、軍艦島(端島)などが見渡せ、気分爽快です。青空の下、清々しい自然と景色を味わってみませんか。